

4月18日に、本校3年生168名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。生活習慣や学習の様子など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

国語A、Bと数学A、Bとも全国平均および京都府平均を上回っています。数学Bでは、全国平均・京都府平均を7ポイントも上回り活用の力がついてきていることがわかります。

国語科より

すべての領域で良好な結果ができています。

どの設問においても、京都府はもとより全国の正答率を大きく上回っています。その中で、課題と考えられるのは、「比喩」に関することと、求められる理由を書くことでした。また、話し合いの結果として可決・否決のいずれでもないものの呼び方を答える問題（正答は、再検討・保留・未決定・未決）では、全国的に正答率が低い結果でした。国語の授業に限らず、話し合い活動を多く体験させる中で、通常用いる言葉の知識として身につけさせることが必要と思われる。

数学科より

すべての領域で良好な結果ができています。

しかし、1年時に学習した内容を忘れてしまい、解答できない傾向があります。

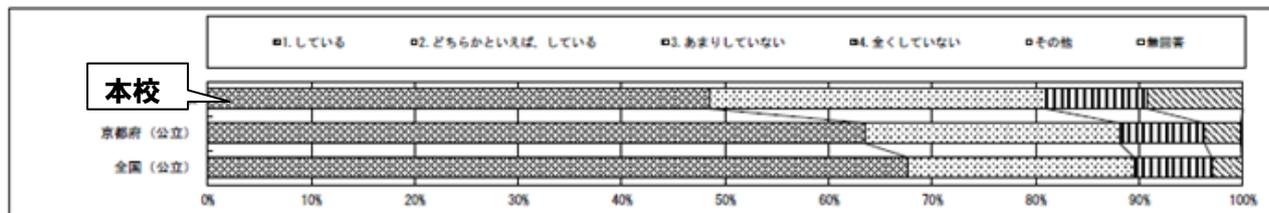
数学ができるようになりたいと思っている生徒は9割近くいますが、授業で公式やきまりを学習するとき、その根拠を理解しようとする生徒は3割に留まっています。また、数学を生活の中に活用しようとする姿勢を持つ生徒も3割程度です。

主体的に復習する力、既習事項を活用して新しい学びに向かう力、物事を数学的に見る力が求められています。

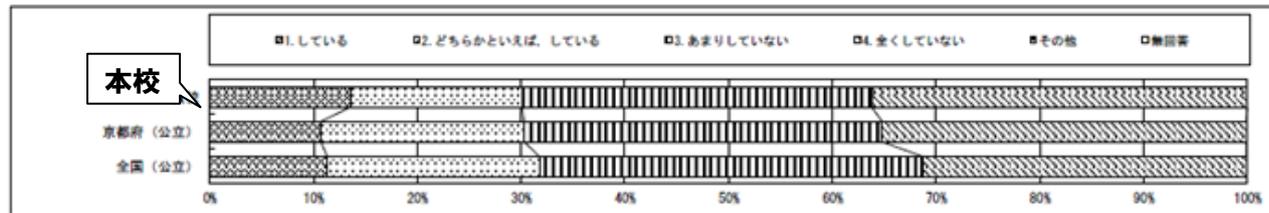
生徒質問紙調査から ①

全国および京都府と比較すると、本校3年生は「学習習慣」のところで落ち込みがあります。学校の授業時間以外の勉強時間は1時間以上の生徒が多いのですが、宿題や予習・復習を主体的・計画的に進めることに課題があるようです。「まったくしていない・あまりしていない」の多さも課題です。

Q 家で、学校の宿題をしていますか。



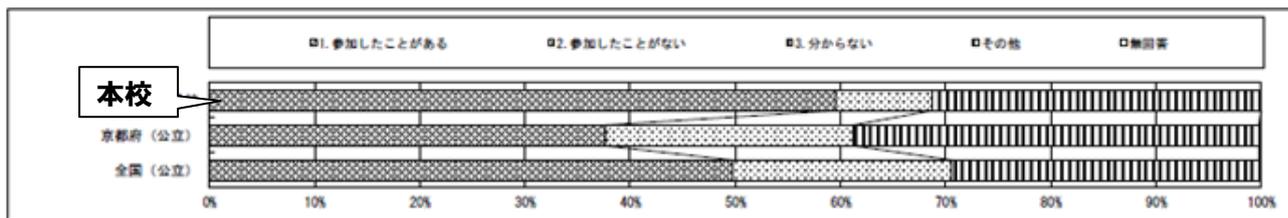
Q 家で、学校の授業の予習をしていますか



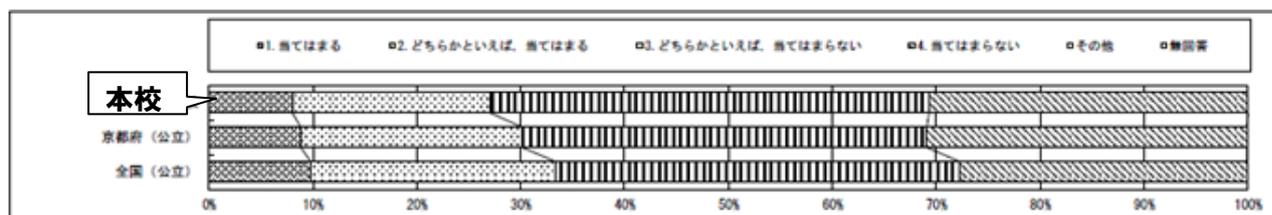
生徒質問紙調査から ②

地域でのボランティア活動に参加したことがある生徒が多い一方で、地域や社会での出来事に関心が低く、地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒は少ないという結果です。身近な地域の話題に触れる機会をふやすことが大切だといえるのではないのでしょうか。

Q 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



Q 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



全体を通した本校の成果と課題

一般的な中学生としてほぼ良好な生活の様子であり、学習の様子であったことは、本校教育の成果だといえます。授業で学んだことを他の学習や普段の生活に生かしていると回答した生徒は26%近くあり、全国および京都市と比べると高い割合です。次期学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かっていけると言えます。また、今年度初めて質問事項となった「友達と話し合うとき友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか」についても肯定的な回答がほとんどです。しかし、日常の生徒の様子を見ていますと、「聞いて理解する力」はまだまだ十分ではありません。聞いてわからないときは相手に聞き返す「つながり力」を育てることがこれからの課題の一つであると感じます。

保護者の皆様へ



全国調査は、子どもたちの学習状況を知ることにより、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今年度の国語の出題を見ると、生徒の日常生活の場面を意識させる設問が多くなっていました。数学でも、日常の事象を数学的に見る目が求められるような出題があります。学校・教室に限らず、子どもたちの日常そのものが、学習の機会であることとらえ、その機会を大切にしたいものです。大枝中学校としても一層の指導改善に努めてまいりますので、引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。